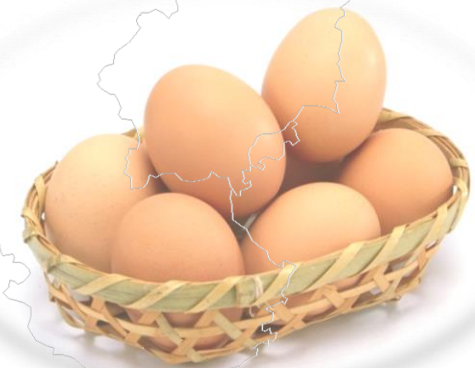




# 近畿地域における 畜産物をめぐる情勢について



令和 8 年 1 月

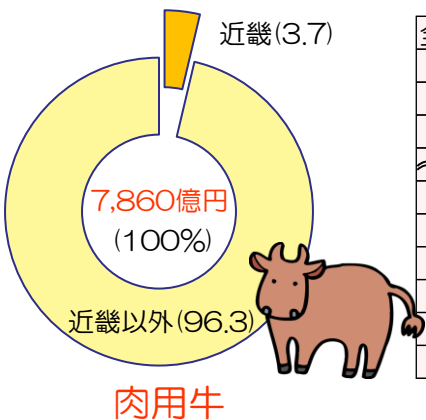
農林水産省  
近畿農政局

# 目次

1. 近畿畜産の概要	・・・	1
2. 乳用牛について	・・・	3
3. 肉用牛について	・・・	6
4. 豚について	・・・	11
5. 鶏について	・・・	14
6. 枝肉の格付基準	・・・	19
7. 牛肉等の輸出促進について	・・・	21
8. 地域家畜市場の概要	・・・	22
9. 地域食肉センター等の概要	・・・	23
10. 生乳処理工場の概要	・・・	24

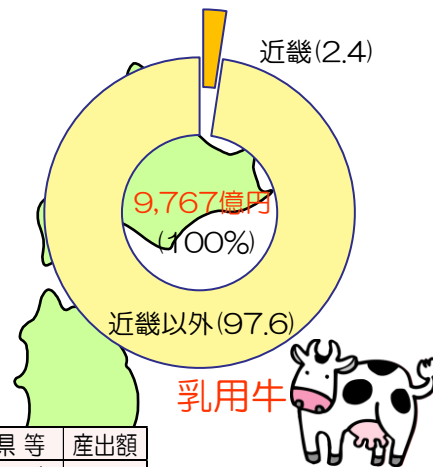
# 1. 近畿畜産の概要 (畜種別)

- 農業産出額に占める畜産部門合計額は全国で36,932億円で、そのうち約2.8%を近畿地域が占める(1,041億円)。
- 府県別では、いずれも兵庫県の産出額が上位である。



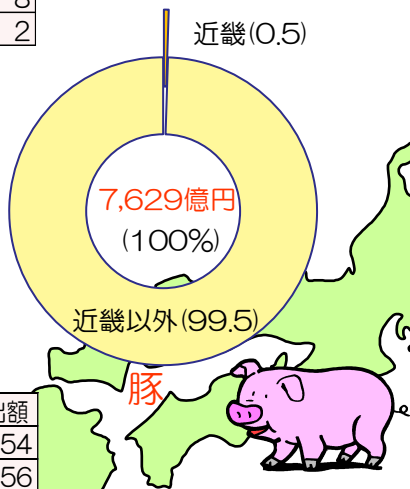
全国順位	県等	産出額
1位	北海道	1,247
2位	鹿児島	1,192
3位	宮崎	797
~~~~~		
12位	兵庫	185
28位	滋賀	74
41位	京都	14
43位	奈良	9
44位	和歌山	8
46位	大阪	2

肉用牛



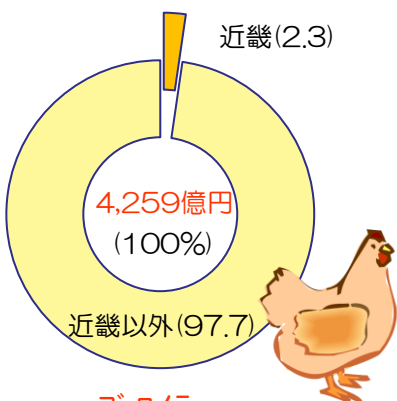
全国順位	県等	産出額
1位	北海道	5,313
2位	栃木	509
3位	熊本	371
~~~~~		
13位	兵庫	115
31位	京都	41
34位	奈良	32
38位	滋賀	26
44位	大阪	12
47位	和歌山	6

乳用牛



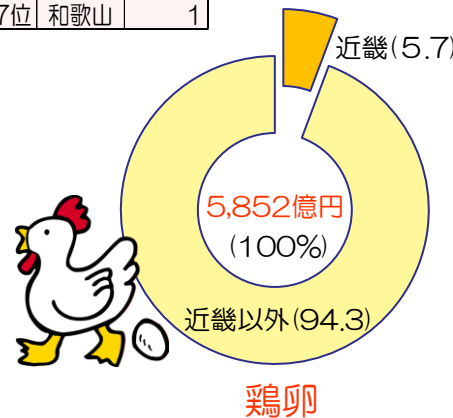
全国順位	県等	産出額
1位	鹿児島	912
2位	北海道	647
3位	宮崎	580
~~~~~		
38位	兵庫	19
40位	京都	13
42位	奈良	3
44位	大阪	2
45位	滋賀	2
47位	和歌山	1

豚



全国順位	県等	産出額
1位	鹿児島	1054
2位	宮崎	756
3位	岩手	691
~~~~~		
12位	兵庫	77
30位	京都	16
36位	和歌山	4
-	滋賀	X
-	奈良	X
-	大阪	-

ブロイラー

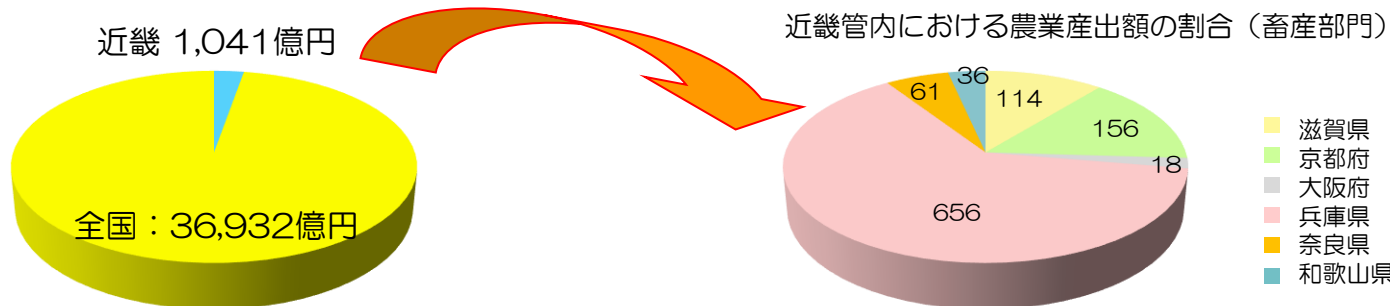


全国順位	県等	産出額
1位	千葉	397
2位	茨城	366
3位	岡山	335
~~~~~		
12位	兵庫	232
25位	京都	66
40位	奈良	14
41位	和歌山	11
45位	滋賀	8
47位	大阪	1

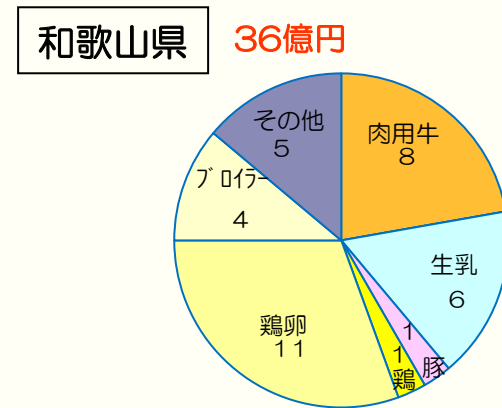
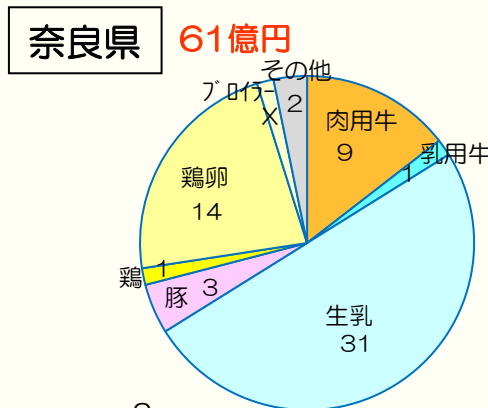
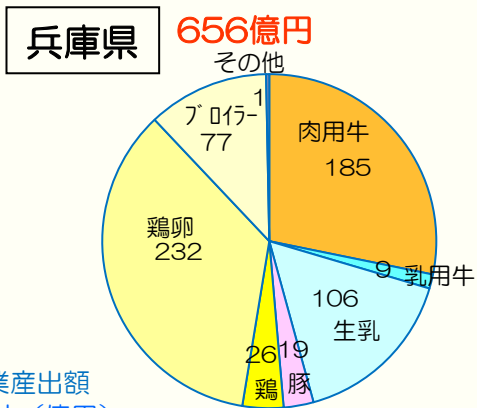
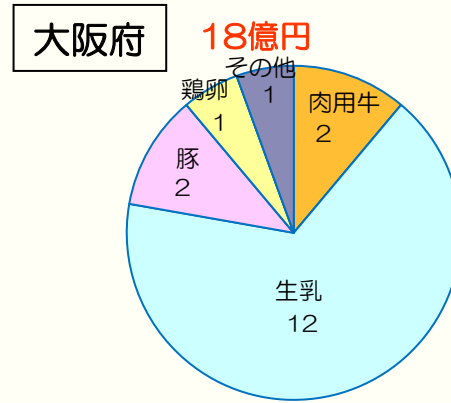
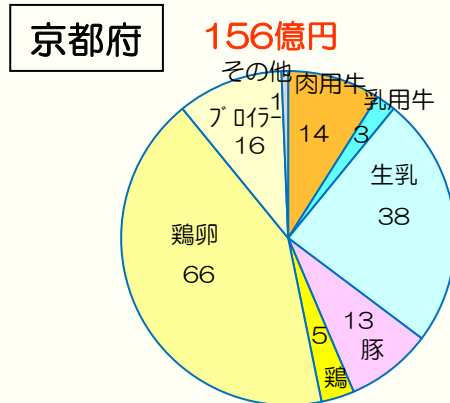
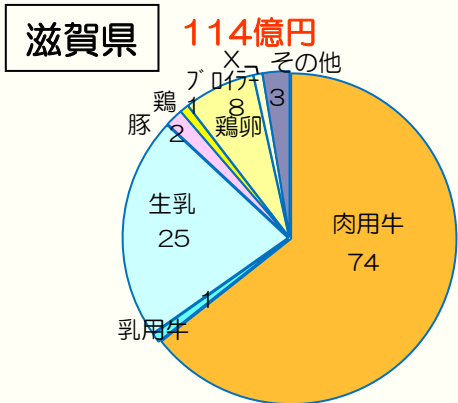
鶏卵

# 1. 近畿畜産の概要 (府県別)

- 全国畜産に対する近畿畜産の割合は、生産額ベースで約2.8%



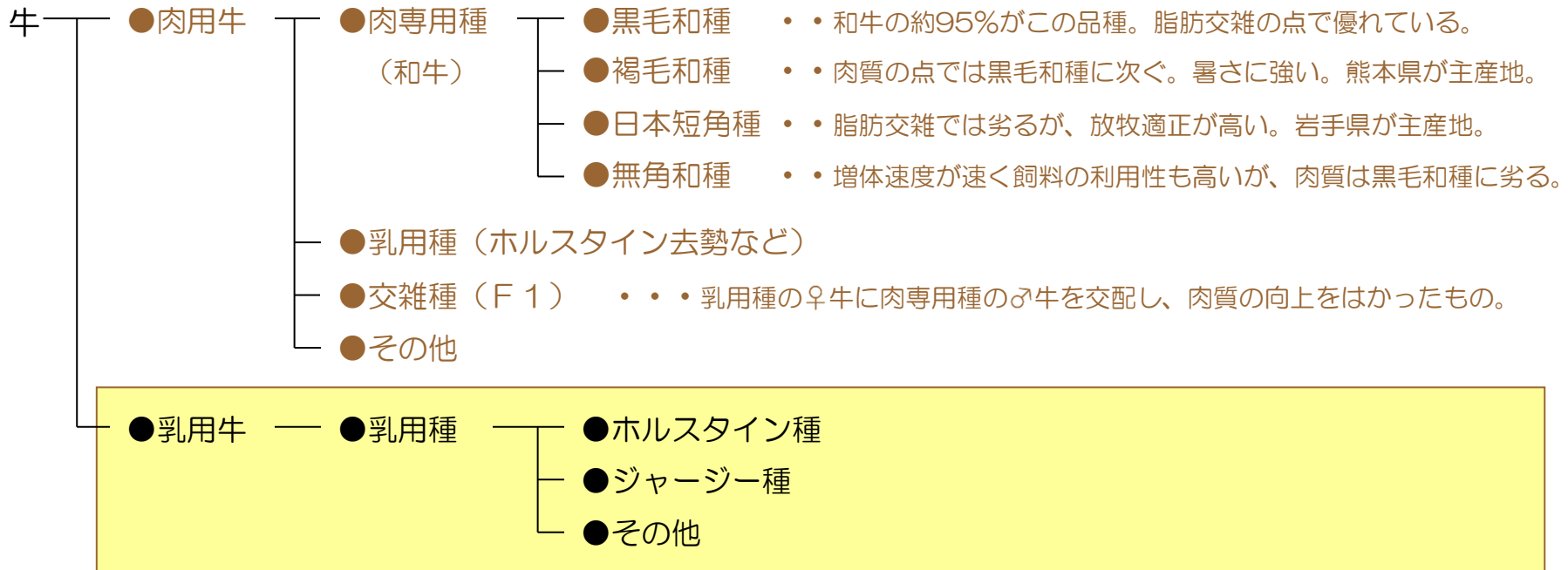
※表示単位未満を四捨五入したため、内訳の計は一致しない



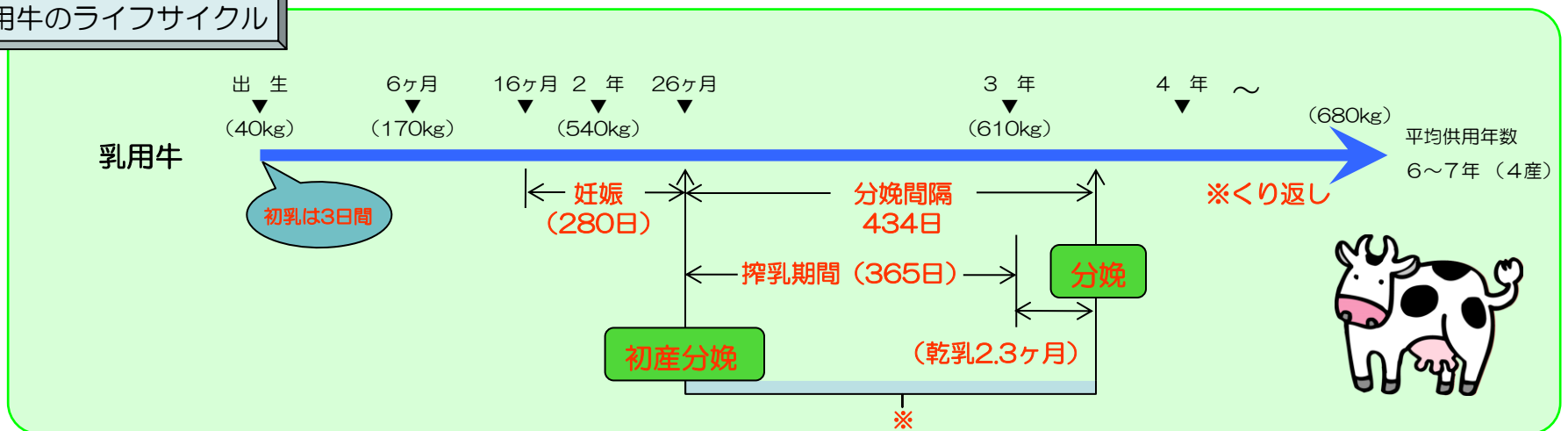
**用語説明**

- 乳用牛・・・乳牛、乳廃牛
- 鶏・・・廃鶏等

## 2. 乳用牛について (分類)

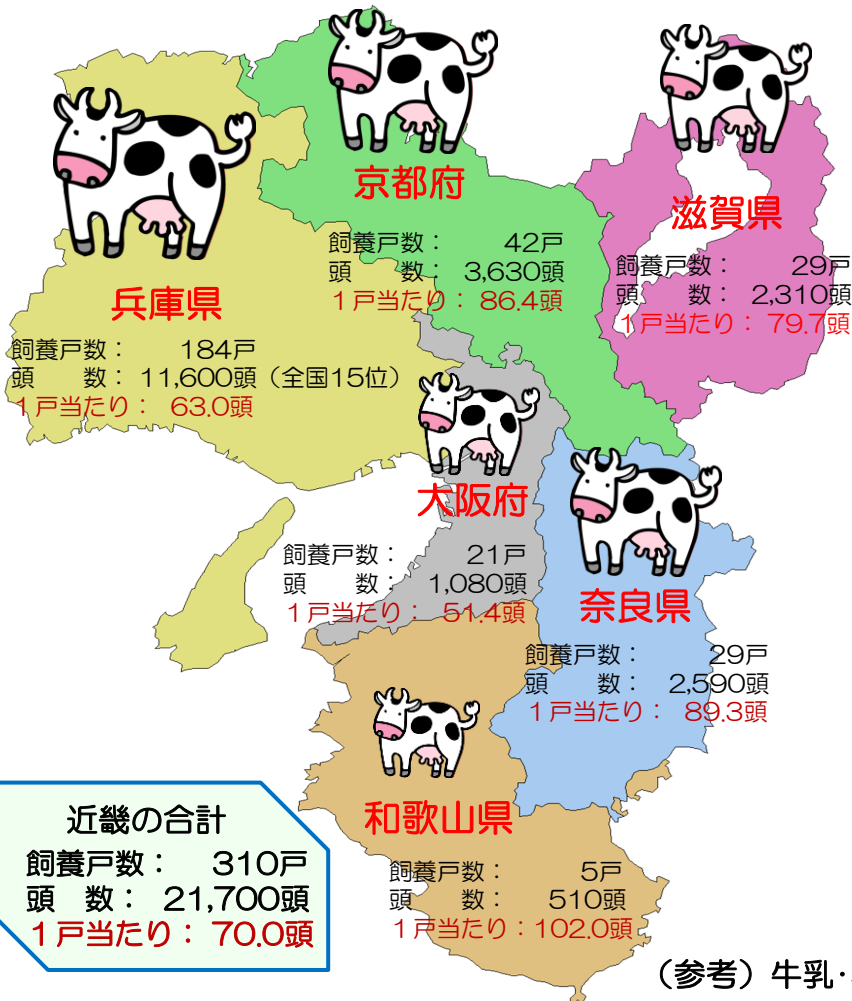


### 乳用牛のライフサイクル

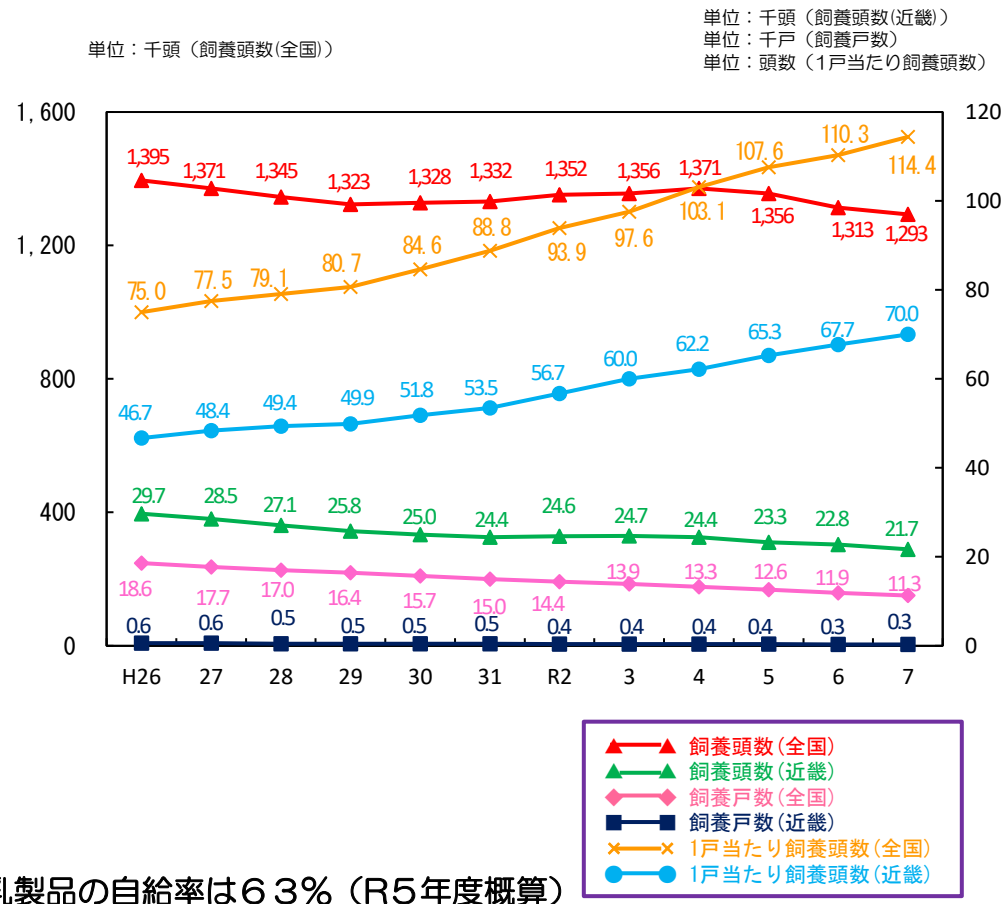


## 2. 乳用牛について (戸数・頭数)

- 近畿地域の令和7年2月1日現在における乳用牛の飼養戸数は310戸で、配合飼料価格の高騰や高齢化による廃業があったため。対前年92.0%。飼養頭数は対前年比95.2%。
- 飼養頭数の府県別では、兵庫県が最も多く11,600頭で、近畿地域の約53.5%を占める。



### 乳用牛飼養頭数等の推移



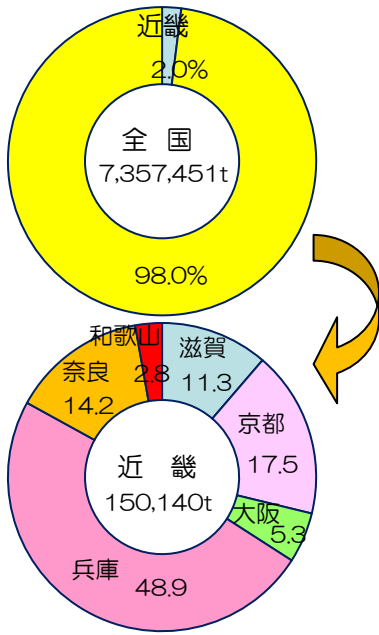
(参考) 牛乳・乳製品の自給率は63% (R5年度概算)



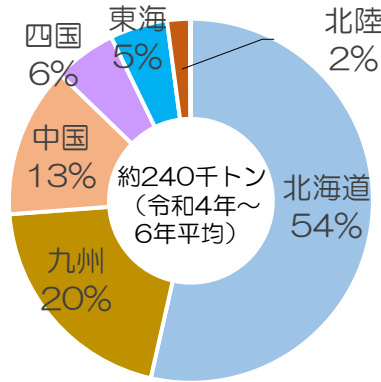
## 2. 乳用牛について (流通・消費)

- 近畿地域における生乳生産量は、約150千t（前年比99.2%）で、全国に占めるシェアは、約2%である。
- 一方、生乳処理量は、約372千t（前年比95%）で、主に北海道や九州から移入しており、その99.6%が飲用牛乳等に仕向けられ、残りは乳製品向けとなっている。

生乳生産量（令和6年）

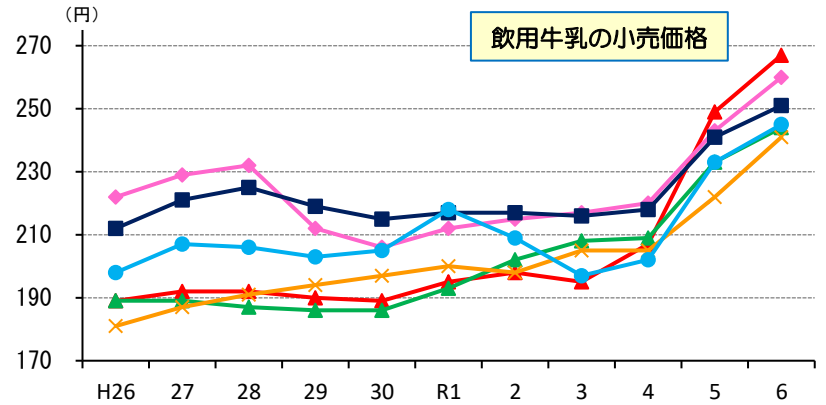


近畿地域外からの移入先割合



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

飲用牛乳の小売価格



資料：総務省「小売物価統計」

生乳の生産・流通の状況 (令和6年)	実数 (千t)	前年比 (%)
生産量(a)	150	99.2
移入量(b)	277	94.5
移出量(c)	54	102.6
処理量(a+b-c)	373	95.4

牛乳購入額

順位	市等	金額：円
1	京都市	18,876
2	奈良市	18,523
3	大津市	17,760
4	堺市	17,750
5	神戸市	17,427
6	名古屋市	17,230
7	鳥取市	17,000
8	津市	16,838
9	松江市	16,814
10	山形市	16,808
11	千葉市	16,675
12	岡山市	16,664
27	大阪市	15,300
39	和歌山市	14,205
50	那覇市	12,869
51	大分市	12,528
52	高知市	12,380
	全国平均	15,545

牛乳消費量

順位	市等	数量：kg
1	京都市	81.62
2	奈良市	81.53
3	大津市	80.55
4	堺市	79.29
5	名古屋	78.98
6	神戸市	77.40
7	千葉市	76.82
8	長野市	76.68
9	山形市	75.53
10	岡山市	75.17
11	盛岡市	74.53
12	川崎市	74.40
26	大阪市	68.73
35	和歌山市	65.38
50	大分市	56.89
51	高知市	53.17
52	那覇市	48.35
	全国平均	70.51

(参考) バター購入額

順位	市等	金額：円
1	京都市	1,894
2	東京都区部	1,698
3	川崎市	1,646
4	千葉市	1,643
5	横浜市	1,627
6	静岡市	1,586
7	奈良市	1,543
8	神戸市	1,531
9	札幌市	1,506
10	山口市	1,458
16	大阪市	1,384
18	堺市	1,360
19	大津市	1,352
29	和歌山市	1,248
50	秋田市	981
51	佐賀市	970
52	那覇市	967
	全国平均	1,290

(参考) バター消費量

順位	市等	数量：g
1	京都市	849
2	川崎市	754
3	東京都区部	752
4	札幌市	751
5	静岡市	734
6	横浜市	733
7	奈良市	705
8	相模原市	694
9	神戸市	694
10	千葉市	693
14	大阪市	649
15	堺市	638
21	大津市	598
25	和歌山市	579
50	秋田市	441
51	那覇市	441
52	高知市	415
	全国平均	579

資料：農林水産省「令和6年牛乳乳製品統計」を基に作成

資料：総務省「家計調査」(R4年~R6年平均)

# 3. 肉用牛について (分類)

牛

●肉用牛

●肉専用種  
(和牛)

●黒毛和種

・和牛の約95%がこの品種。脂肪交雑の点で優れている。

●褐毛和種

・肉質の点では黒毛和種に次ぐ。暑さに強い。熊本県が主産地。

●日本短角種

・脂肪交雑では劣るが、放牧適正が高い。岩手県が主産地。

●無角和種

・増体速度が速く飼料の利用性も高いが、肉質は黒毛和種に劣る。

●乳用種 (ホルスタイン去勢など)

●交雑種 (F1)

・・・乳用種の♀牛に肉専用種のみ牛を交配し、肉質の向上をはかったもの。

●その他

●乳用牛

●乳用種

●ホルスタイン種

●ジャージー種

●その他

## 肉用牛のライフサイクル



黒毛和種

写真提供：(社)全国肉用牛振興基金協会



褐毛和種

写真提供：(社)全国肉用牛振興基金協会



日本短角種

写真提供：(社)全国肉用牛振興基金協会



無角和種

写真提供：山口県畜産課



ホルスタイン種

写真提供：(社)中央畜産会



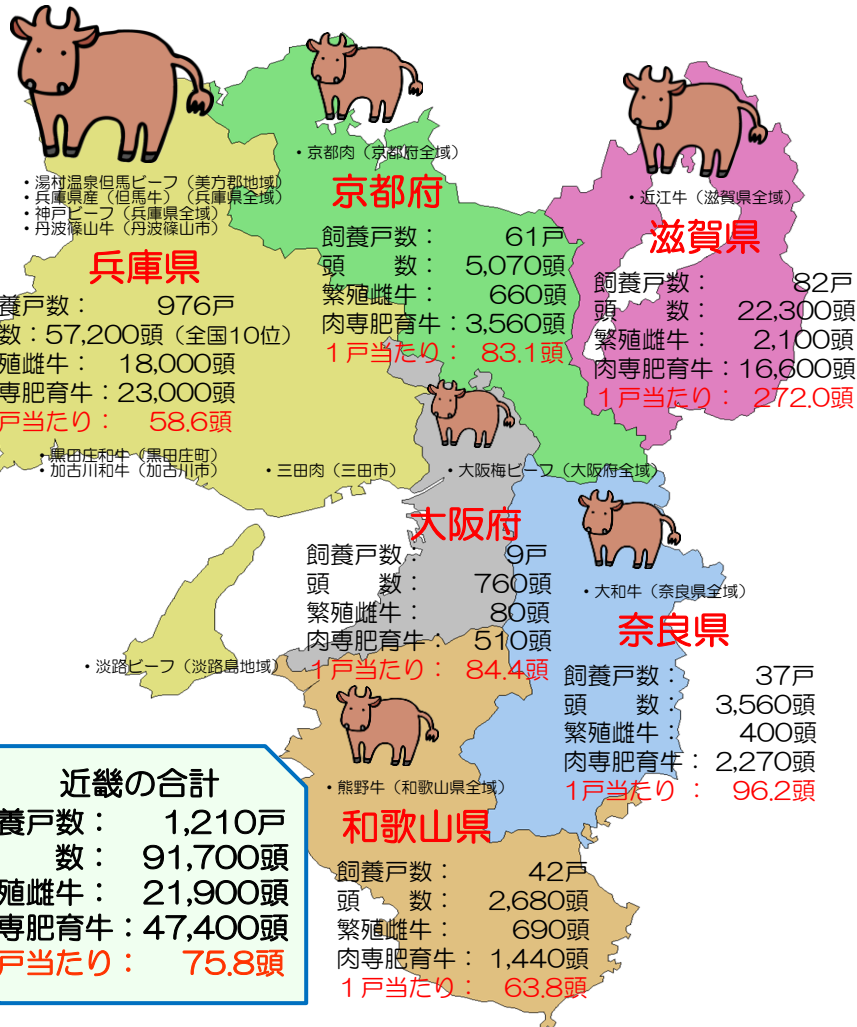
交雑種 (黒毛♂ × ホルスタイン♀)

写真提供：(社)全国肉用牛振興基金協会

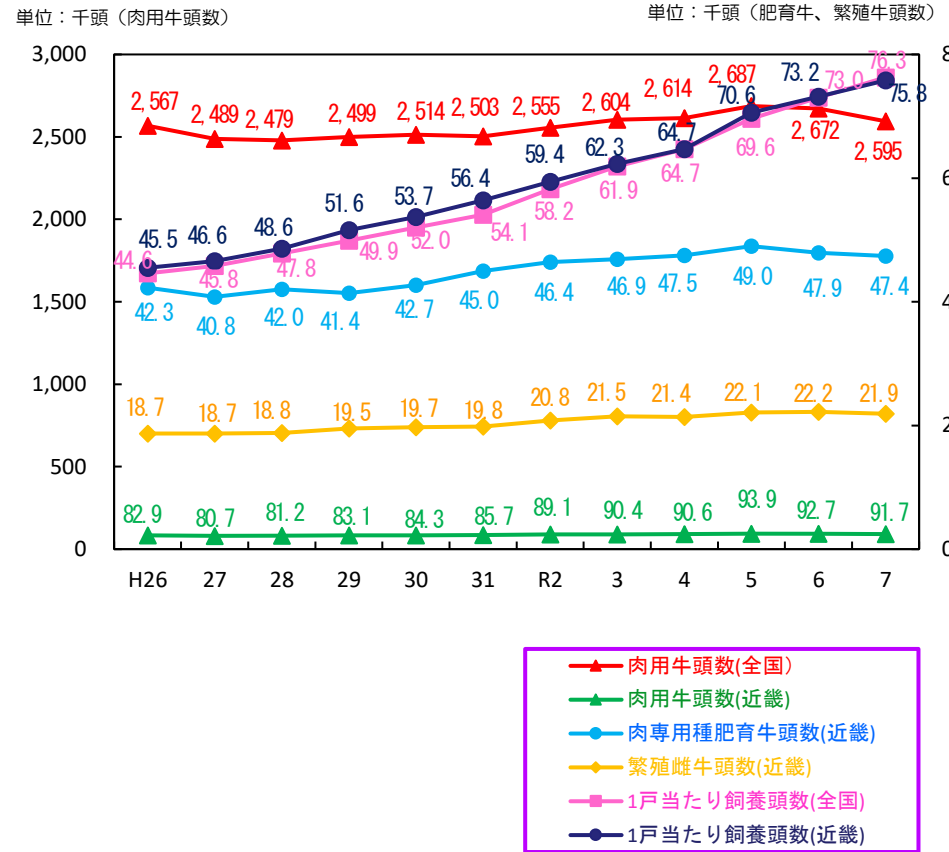


# 3. 肉用牛について (戸数・頭数)

- 近畿地域の令和7年2月1日現在における肉用牛の飼養戸数は1,210戸で、配合飼料価格の高騰や高齢化による廃業があったため、対前年比で95.3%。飼養頭数は対前年比98.9%。
- 飼養頭数の府県別では、兵庫県が最も多く57,200頭で、近畿地域の約62.4%を占める。



## 肉用牛飼養頭数等の推移



資料：農林水産省「畜産統計」(令和7年2月1日現在)

(参考) 牛肉の自給率は40%(R5年度概算)

### 3. 肉用牛について (子牛)

- 肉用子牛価格（黒毛和種）は、肉用子牛生産者補給金制度発足以降、BSE発生の影響等のあった一時期を除いて、保証基準価格を上回っている状況。
- 令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響による枝肉価格の低下に連動し、子牛価格は低下した。
- その後、枝肉価格の上昇の影響に伴い回復したが、令和4年5月に子牛価格が下落。直近の令和6年度第3四半期では保証基準価格を下回って推移している一方、但馬家畜市場及び淡路家畜市場では、高値で推移。



#### 子牛価格（黒毛和種）の動向



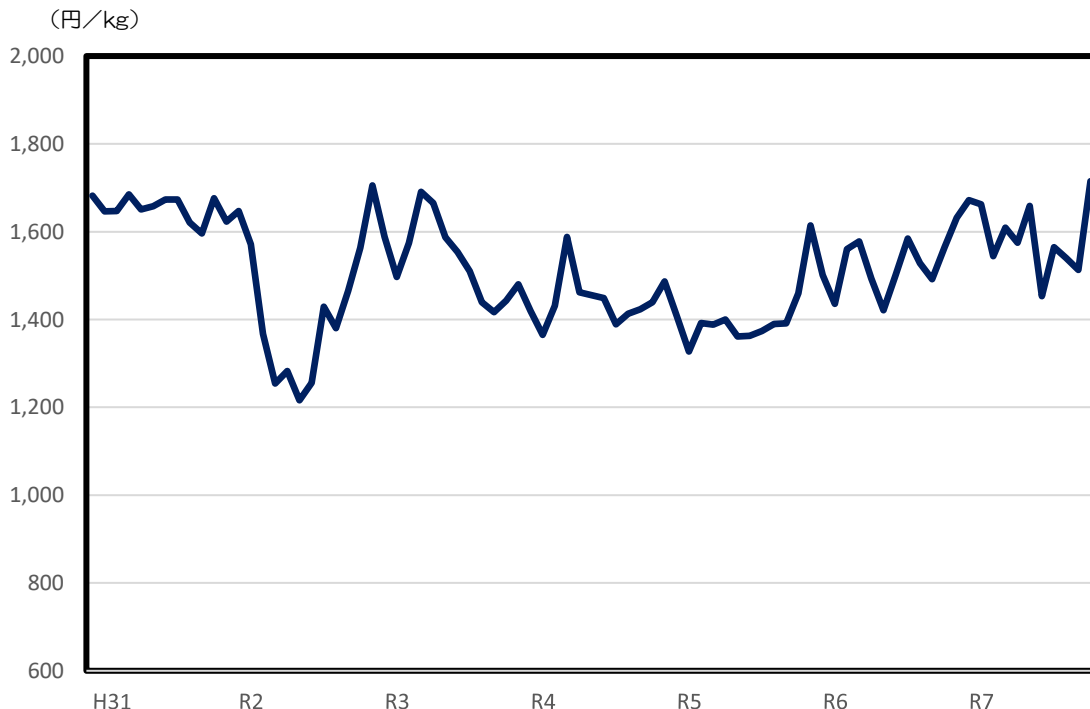
資料：(独)農畜産業振興機構「肉用子牛取引情報」



### 3. 肉用牛について (流通・消費)

- 卸売価格は、近年の肉ブームの一層の高まりや生産量の減少を背景に、和牛は平成28年に過去最高水準まで高騰。
- 令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響でインバウンド需要や外食需要が減退したことにより卸売価格は大幅に下落したが、経済活動の再開に伴い上昇し、前年を上回る又は前年並みに推移。
- 令和4年度以降、コロナ感染拡大に加え、物価上昇による消費者の生活防衛意識の高まり等の影響もあり、前年を下回って推移。
- 令和6年度(4-12月)の和牛価格は、引き続き軟調に推移しているが、直近10月以降前年同月を上回って推移。

牛肉〈去勢B-3・2規格〉の卸売価格(大阪)



注：去勢B-3・2規格とは、牛枝肉取引規格のうち、和牛去勢、交雑牛去勢の、それぞれの「B-3」「B-2」を合わせたものである。

牛肉購入額


順位	市等	金額：円
1	堺市	36,465
2	京都市	34,543
3	奈良市	33,909
4	神戸市	33,653
5	和歌山市	33,135
6	大阪市	32,582
7	大津市	30,616
8	津市	30,182
9	山口市	28,655
10	大分市	28,403
11	北九州市	28,244
12	広島市	28,096
13	松山市	26,942
14	福岡市	26,080
15	徳島市	25,999
~~~~~		
50	前橋市	11,568
51	新潟市	11,136
52	盛岡市	10,622
	全国平均	21,709

牛肉消費量

順位	市等	数量：g
1	堺市	8,732
2	大阪市	8,555
3	奈良市	8,268
4	松山市	8,235
5	北九州市	8,086
6	京都市	7,924
7	山形市	7,919
8	山口市	7,909
9	福岡市	7,585
10	和歌山市	7,516
11	広島市	7,498
12	神戸市	7,401
13	津市	7,379
14	大分市	7,378
15	大津市	7,303
~~~~~		
50	盛岡市	3,360
51	新潟市	3,359
52	前橋市	3,077
	全国平均	5,861

資料：総務省「家計調査」(R4年～R6年平均)

# 3. 肉用牛について (銘柄)

府県名	銘柄	定義	管理主体
滋賀県	近江牛 (おうみうし、おうみぎゅう) 	「豊かな自然環境と水に恵まれた滋賀県内で最も長く飼育された黒毛和種」に合致することが、牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法に基づく個体識別情報により確認できるもの。	「近江牛」生産・流通推進協議会
京都府	京都肉 (きょうとにく) 	黒毛和種で最長飼養地が京都府内であり、京都市中央卸売市場第二市場に出荷され、と畜解体された枝肉で、日本食肉格付け協会による枝肉格付け「A-5、B-5及びA-4、B-4規格」のもの。ただし、著しく品質が劣るものは除く。	京都肉牛流通推進協議会
	京の肉 (きょうのにく) 	京都府内で肥育された黒毛和種で、府内のJA組合員が出荷し、全農京都府本部が取り扱うものをいい、JAS法によるところの産地表示が京都産であるものをいう。	全農京都府本部
	亀岡牛 (かめおかぎゅう) 	黒毛和種で、と畜から遡って14ヶ月以上、亀岡市内で肥育され、亀岡市食肉センターでと畜されたものであり、亀岡牛枝肉振興協議会が認めるもの。	亀岡牛枝肉振興協議会
大阪府	大阪ウメビーフ (おおさかうめびーふ) 	大阪ウメビーフ協議会生産者部会の会員が、黒毛和種を中心に、漬け梅供給部会が供給する梅酒製造時に係る漬け梅を飼料として、1日1頭1kg以上、出荷前6ヶ月以上給与していること、並びに肥育目的として抗生物質製剤やホルモン剤を使用せずに生産出荷した牛肉。	大阪ウメビーフ協議会
兵庫県	但馬牛・但馬ビーフ (たじまぎゅう・たじまびーふ) 	兵庫県内で生産された但馬牛(但馬牛の血統をもつ黒毛和種。以下同じ。)を素牛として、登録生産者が兵庫県内で肥育し、県内の食肉センターに出荷・処理されたものであって、歩留等級が「A」「B」等級。	神戸肉流通推進協議会
	神戸ビーフ・神戸肉・神戸牛 (こうべびーふ・こうべにく・こうべぎゅう) 	兵庫県産(但馬牛)のうち、未經産牛・去勢牛であり、枝肉格付等が以下のもの。 ①脂肪交雑はBMS6以上 ②歩留等級は「A」「B」等級 ③枝肉重量は雌が230kg以上470kg以下、去勢は260kg以上470kg以下	神戸肉流通推進協議会
	淡路ビーフ (あわじびーふ) 	淡路島内で生まれた兵庫県産黒毛和種(但馬牛)の登録牛及び登記牛(産地証明含む)で、「去」では生後25ヶ月以上・550kg(枝肉330kg)以上、「雌」では未經産で470kg(枝肉280kg)以上とし、淡路家畜市場において上場取引及び自家保留し兵庫県内で肥育された牛で、系統組織が主催または協賛する肉牛せり及び枝肉共助会並びに兵庫県内の食肉センターにおいて出荷処理されたもの。但し、枝肉規格はA・B3-4相当以上とする。	淡路ビーフブランド化推進協議会

府県名	銘柄	定義	管理主体
兵庫県	丹波篠山牛 (たんばささやまぎゅう) 	兵庫県産肉牛の肥育素牛が市内の生産農家により肥育されたもので、JA指定配合「ささやま21」を給与されたもの。	丹波篠山肉牛流通推進協議会
	三田牛・三田肉 (さんだぎゅう・さんだにく) 	兵庫県産黒毛和種を三田市内生産者及び本会指定生産者が生後28ヶ月以上肥育したもの。	三田肉流通振興協議会
	湯村温泉但馬ビーフ (ゆむらおんせんたじまびーふ) 	黒毛和種(兵庫県産で但馬牛の純血のもの)を但馬地域内で長期間(10ヶ月以上)肥育され県内食肉センターで出荷され基準に合格したもの。	湯村温泉但馬ビーフ流通振興協議会
	黒田庄和牛 (くろだしょうわぎゅう) 	①生産者が黒田庄和牛同志会会員であること ②兵庫県産但馬牛が肥育素牛 ③JAのみりを通じて導入、出荷されていること	のみり農業協同組合
	加古川和牛 (かこがわわぎゅう) 	兵庫県産但馬牛の肥育素牛が加古川市内の生産者により12ヶ月以上肥育され、兵庫県内の食肉センターにおいてと畜されたもので、枝肉格付が「A」「B」のもの。	加古川和牛流通推進協議会
兵庫県	本場但馬牛 (ほんばたじまぎゅう) 	但馬地域で生まれ、育成された但馬牛を素牛として「本場但馬牛銘柄推進協議会登録会員」が但馬地域で肥育し、県内の食肉センターに出荷された生後28ヶ月齢から60ヶ月齢までの未經産牛及び去勢牛で、枝肉格付等は脂肪交雑BMSNo.3以上、「A」「B」等級。	本場但馬牛銘柄推進協議会
	PREMIUM姫路和牛 (ぷれみあむひめじわぎゅう) 	兵庫県内で生産された但馬牛を素牛として、兵庫県西播地区の指定生産者が肥育し、姫路市食肉地方卸売市場に出荷・処理されたものであって、神戸肉流通推進協議会が規定する但馬牛の条件を満たすもの。	姫路畜産荷受株式会社
奈良県	大和牛 (やまとうし) 	①最長飼養地が奈良県内である黒毛和種であり、雌牛は未經産、去勢牛については県内生まれであること。②出荷月例は雌牛は30ヶ月以上、去勢牛は28ヶ月齢以上で、奈良県食肉流通センターに出荷されたもの。	奈良県大和牛流通推進協議会
和歌山県	熊野牛 (くまのぎゅう) 	県内または指定農場で14ヶ月以上飼育され、かつ出荷月齢が26ヶ月齢以上の黒毛和種から生産された牛肉で、格付けがA3、B3以上又は熊野牛認定委員会が適当と認めたもの。	和歌山県熊野牛ブランド化推進協議会



## 4. 豚について (品種)

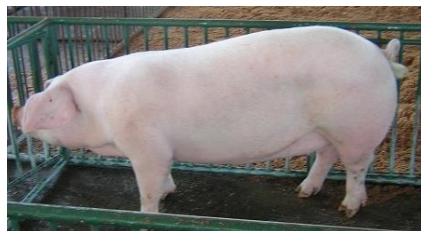
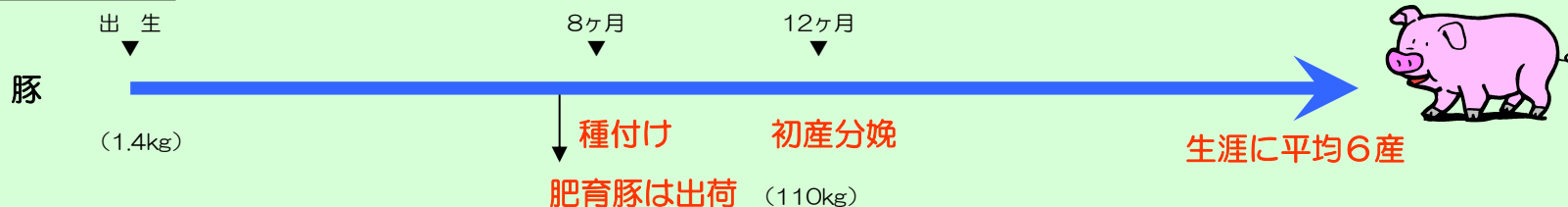
- 交雑種を生産するために国内で飼育されている純粋種は6品種

★三元交配 (さんげんこうはい) . . .

養豚は主として、異なる品種を掛け合わせることによってそれぞれの両親や祖父母が持つ特徴を活かして肉質や発育性などを向上させる生産方法がとられる。

- ランドレース種 . . . デンマーク原産。赤肉率が高く、発育も極めて早い。
- 大ヨークシャー種 . . . 英国原産。加工用の原料として高い評価。
- 中ヨークシャー種 . . . 英国原産。発育が遅いため、飼育頭数は激減。
- バークシャー種 . . . 英国原産。肉質に優れ、鹿児島などでは「黒豚」でおなじみ。
- ハンプシャー種 . . . 米国原産。採食性が強く、放し飼いに適する。
- デュロック種 . . . 米国原産。主要な雄系品種として飼養頭数多い。

### 豚のライフサイクル



ランドレース種 (写真提供: 兵庫県)



大ヨークシャー種 (写真提供: 兵庫県)



バークシャー種 (写真提供(社)日本養豚協会)

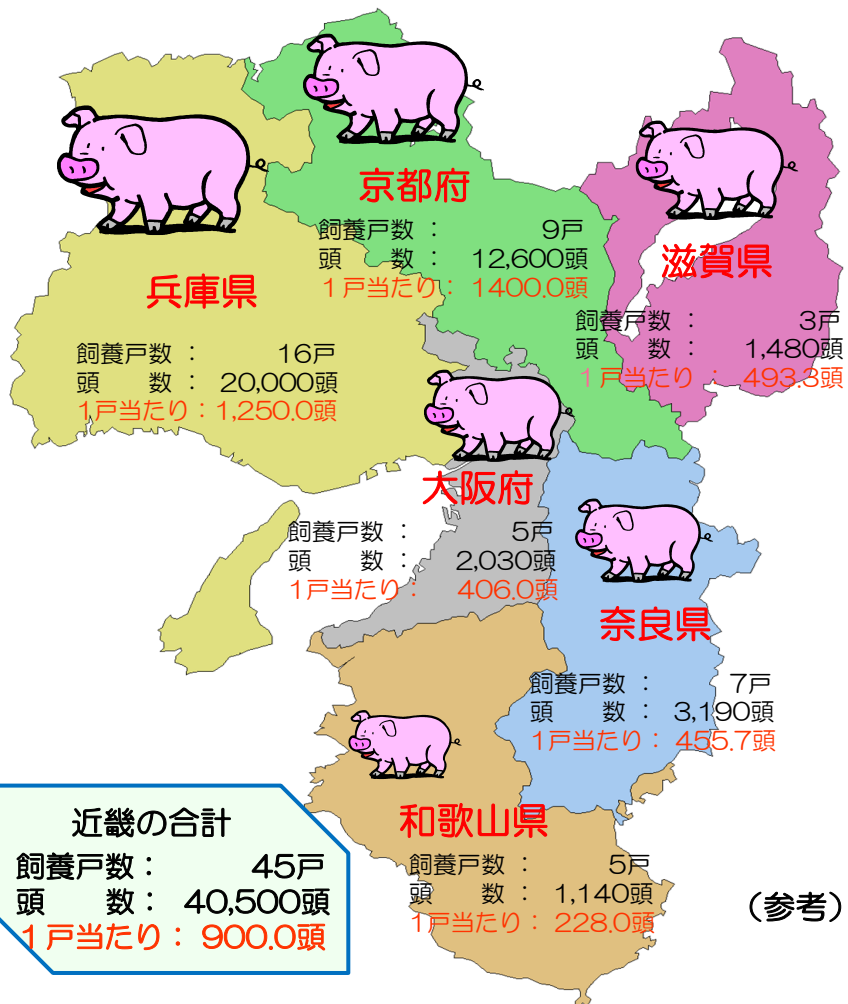


デュロック種 (写真提供: 兵庫県)



# 4. 豚について (戸数・頭数)

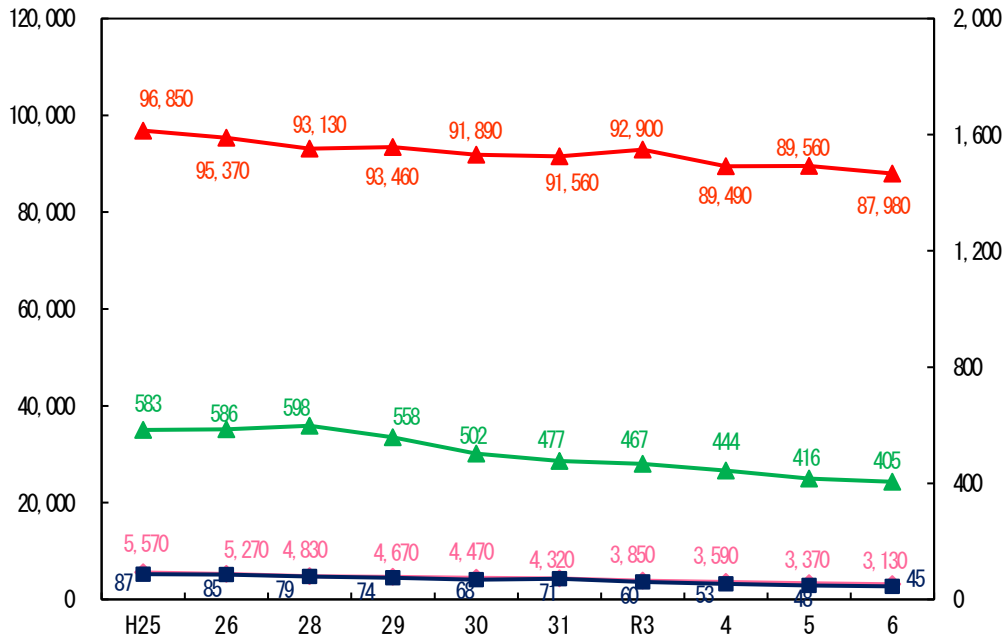
- 近畿地域の令和6年2月1日現在における豚の飼養戸数は45戸。
- また飼養頭数は40,500頭、対前年比で97.4%と減少。1戸当たりの頭数は、33頭増加した。



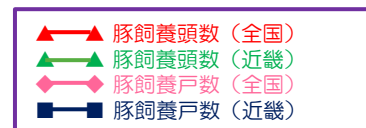
### 豚飼養頭数等の推移

単位：百頭 (飼養頭数(全国))  
 単位：戸 (飼養戸数(全国))

単位：頭 (飼養頭数(近畿))  
 単位：戸 (飼養戸数(近畿))

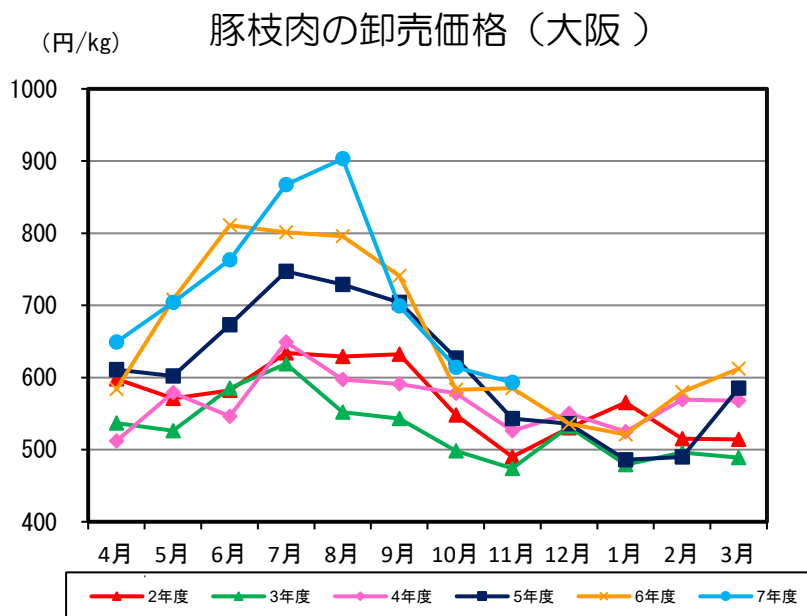


(参考) 豚肉の自給率は49% (R5年度概算)



## 4. 豚について (流通・消費)

- 令和2年度は、新型コロナの影響による「巣ごもり需要」により、価格は例年より高い水準で推移し、前年度より上昇となった。
- 令和3年度は緊急事態宣言等による巣ごもり需要で卸売価格は引き続き堅調に推移しているが、「巣ごもり需要」がやや弱ったことにより、前年度比低下。
- 令和4年度は、高騰する輸入品の代替需要に加え、比較的高価な牛肉からの需要シフト等を背景に、前年度に比べ上昇した。
- 令和5年度は、前年同様、堅調に推移し、最高値を更新。
- 令和6年度(4-12月)は、最高値をさらに更新している。



資料：農林水産省「畜産物市況情報」

豚肉購入額			豚肉消費量		
順位	市等	金額：円	順位	市等	数量：g
1	新潟市	38,033	1	新潟市	27,252
2	福島市	37,060	2	相模原市	25,278
3	さいたま市	36,802	3	福島市	25,276
4	東京都区部	36,718	4	札幌市	24,688
5	浜松市	36,438	5	静岡市	24,396
6	相模原市	36,327	6	浜松市	23,963
7	横浜市	36,230	7	秋田市	23,821
8	秋田市	35,959	8	山形市	23,784
~~~~~					
22	大阪市	32,829	9	さいたま市	23,722
23	堺市	32,724	10	青森市	23,475
~~~~~					
26	奈良市	32,480	25	大阪市	21,419
28	神戸市	32,211	38	奈良市	20,260
30	京都市	32,011	41	大津市	19,939
33	大津市	31,606	42	堺市	19,928
42	和歌山市	30,712	44	京都市	19,463
~~~~~					
50	北九州市	28,514	45	和歌山市	19,036
51	高知市	28,056	46	神戸市	18,987
~~~~~					
52	福井市	27,377	50	高知市	18,018
	全国平均	33,286	51	福井市	17,634
			52	徳島市	17,220
				全国平均	22,058

資料：総務省「家計調査」(R4年~R6年平均)

# 5. 鶏について (分類)

鶏

肉用種

- 白色プリマスロック
- 白色コーニッシュ
- 在来種 (しゃも、コーチンなど)
- 地鶏 (名古屋コーチン、丹波地どりなど)

「白色コーニッシュ♂」と「白色プリマスロック♀」を掛け合わせたものがブロイラーの主流

● 在来種とは・・・  
明治時代までに国内で品種として確立し、又は導入され定着した38品種。

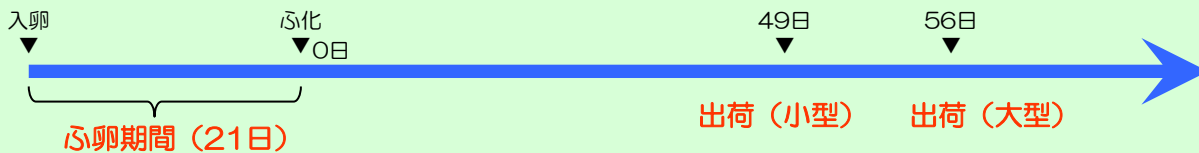
- 地鶏とは・・・
    - ・ 素びなは在来種由来の血液百分率が50%以上のものであって、出生の証明ができるものを使用していること。
    - ・ ふ化日から80日以上飼育していること。
    - ・ 28日齢以降平飼いで飼育していること。
    - ・ 28日齢以降1㎡当たり10羽以下で飼育していること。
- (「地鶏肉の日本農林規格」より)



白色プリマスロック

写真提供：(社)中央畜産会

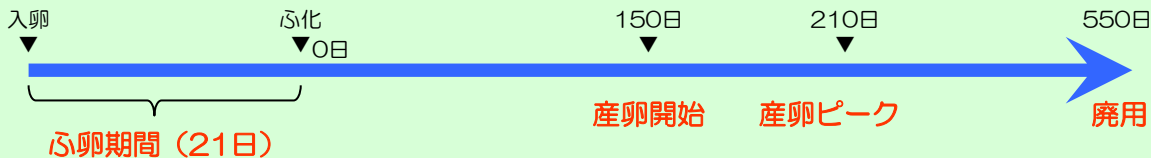
肉用鶏のライフサイクル



卵用種

- 白色レグホンなど

卵用鶏のライフサイクル



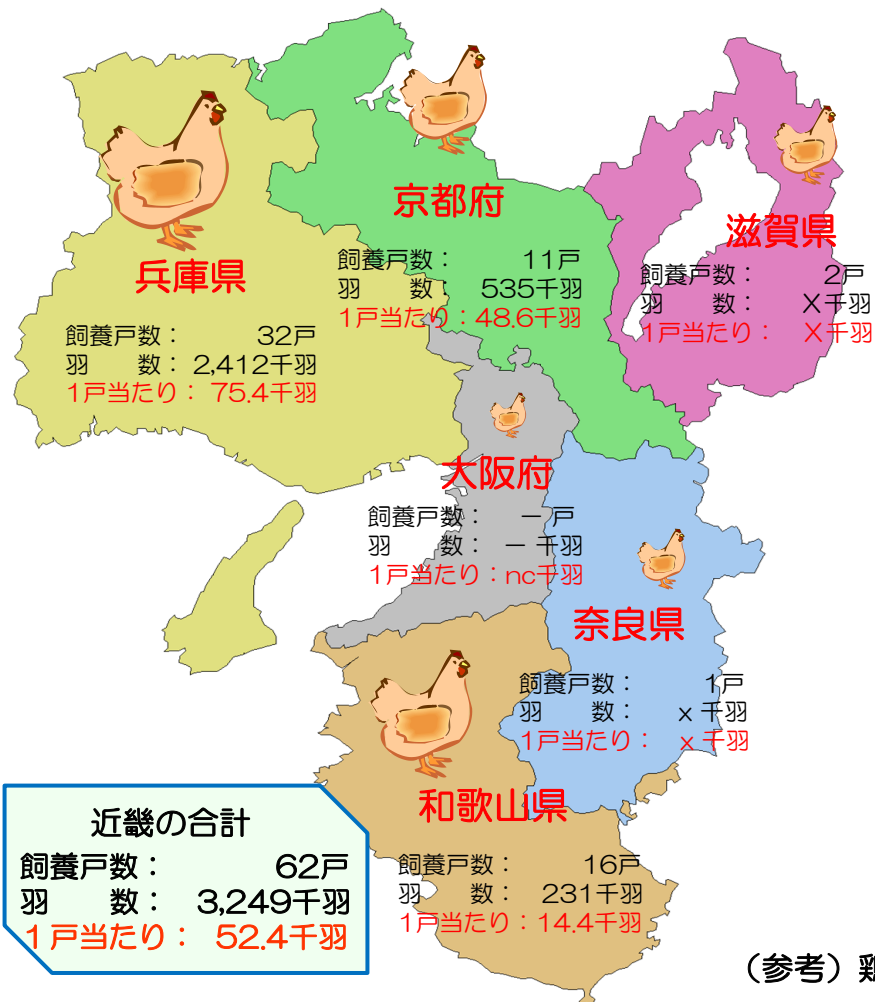
白色レグホン

写真提供：(社)中央畜産会

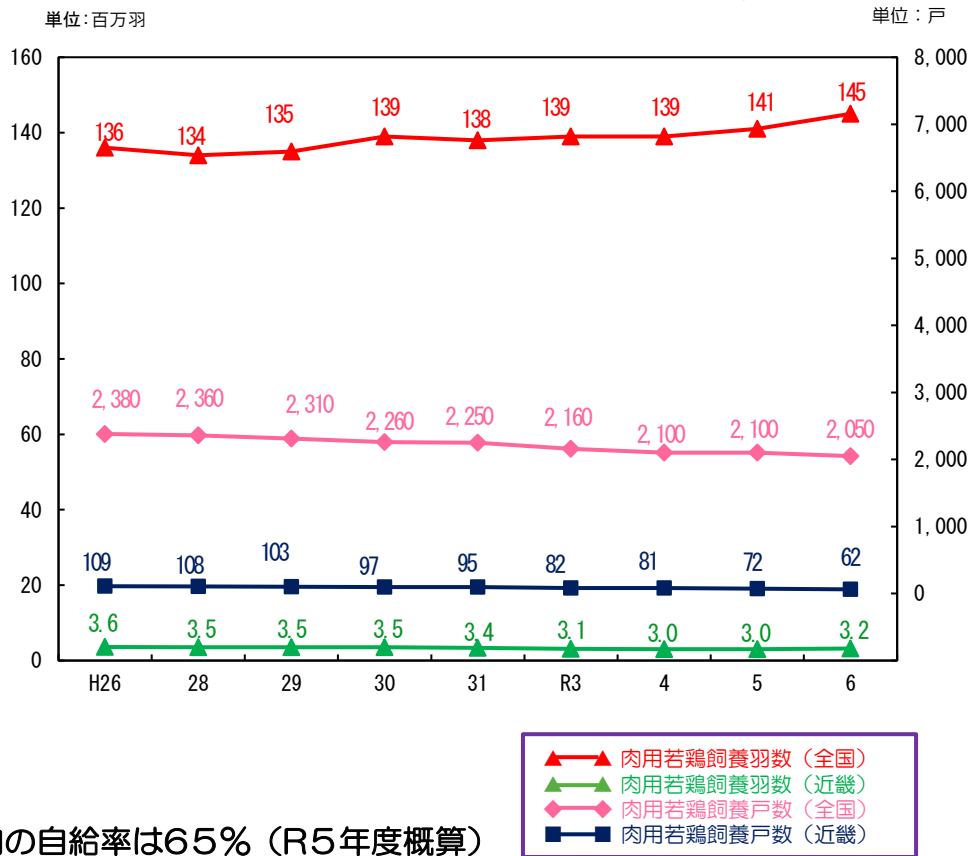


# 5. 鶏について(肉用鶏) (戸数・羽数)

- 全国のプロイラーの年間出荷羽数は7億3,192万9000羽。消費者の健康志向の高まりや根強い国産志向を背景として価格が堅調に推移していたこと等から、前年比1.5%増となった。



## ブロイラー飼養羽数等の推移

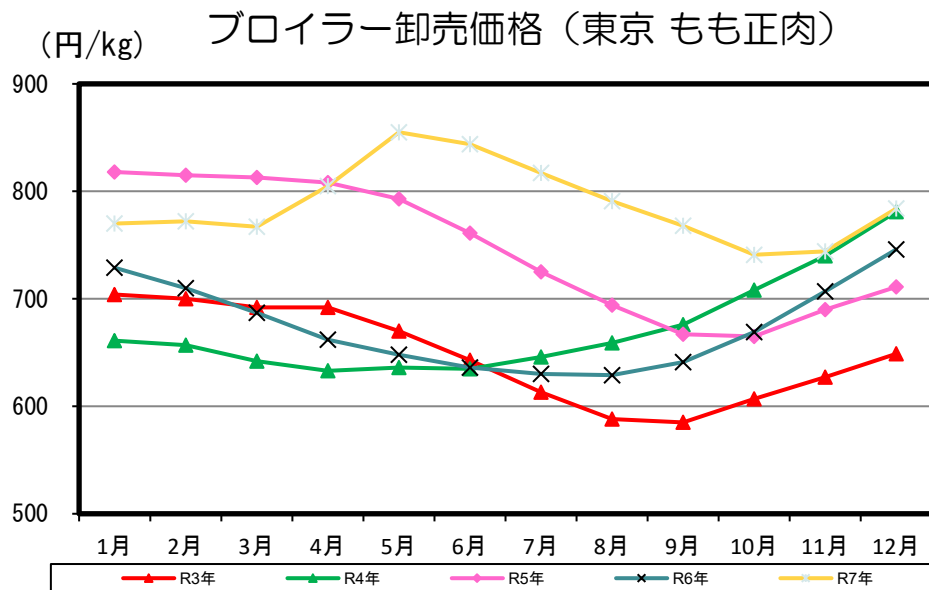


(参考) 鶏肉の自給率は65% (R5年度概算)

資料：農林水産省「畜産統計」(令和6年2月1日現在)

## 5. 鶏について(肉用鶏) (流通・消費)

- もも肉価格は、夏場の低需要期に向けて低下し、年末の需要期に向けて上昇する傾向がある。
- 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による「巣ごもり需要」の高まりから、量販店を中心に引き合いが強く、前年度比上昇した。
- 令和3年度は、夏以降「巣ごもり需要」に落ち着きがみられたこと等から価格が低下したが、令和4年度は、需要の安定的な推移等から価格は上昇した。
- 令和5年度は、季節性の変動はあるものの例年並みの水準で推移した。
- 令和6年度（4-1月）は、前年同期比7.0%減少。



資料：農林水産省「食鳥市況情報」

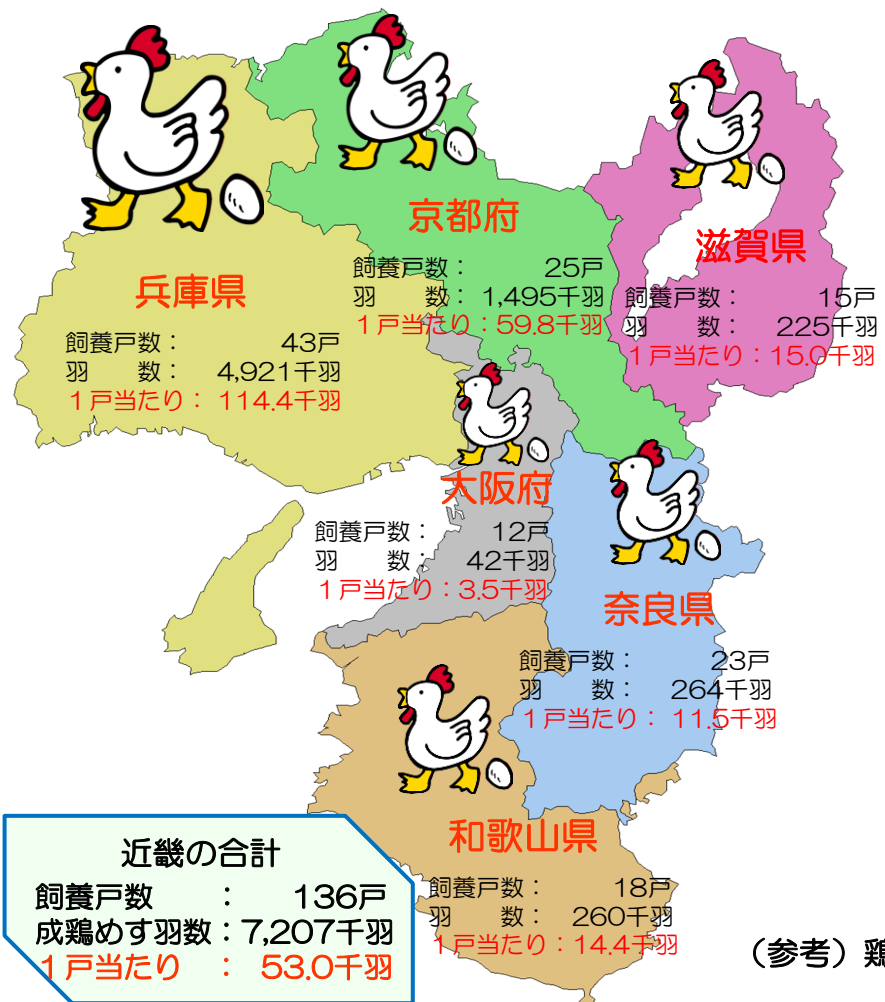
鶏肉購入額			鶏肉消費量		
順位	市等	金額：円	順位	市等	数量：g
1	大分市	22,590	1	熊本市	23,158
2	福岡市	22,501	2	大分市	23,109
3	熊本市	21,906	3	鹿児島市	21,650
4	鹿児島市	21,889	4	福岡市	21,532
5	京都市	21,377	5	大阪市	21,500
6	大阪市	21,154	6	松江市	21,374
7	岡山市	20,728	7	佐賀市	21,023
8	大津市	20,528	8	宮崎市	20,657
9	奈良市	20,466	9	岐阜市	20,066
10	宮崎市	20,458	10	大津市	19,942
11	神戸市	20,288			
12	佐賀市	20,195	13	京都市	19,683
			14	奈良市	19,533
18	堺市	19,379	17	堺市	19,253
25	和歌山市	18,483	18	神戸市	18,938
			23	和歌山市	18,749
50	福島市	14,497			
51	前橋市	14,465	50	長野市	14,351
52	長野市	13,488	51	水戸市	14,084
	全国平均	18,321	52	福島市	13,729
				全国平均	18,236

資料：総務省「家計調査」（R4年～R6年平均）

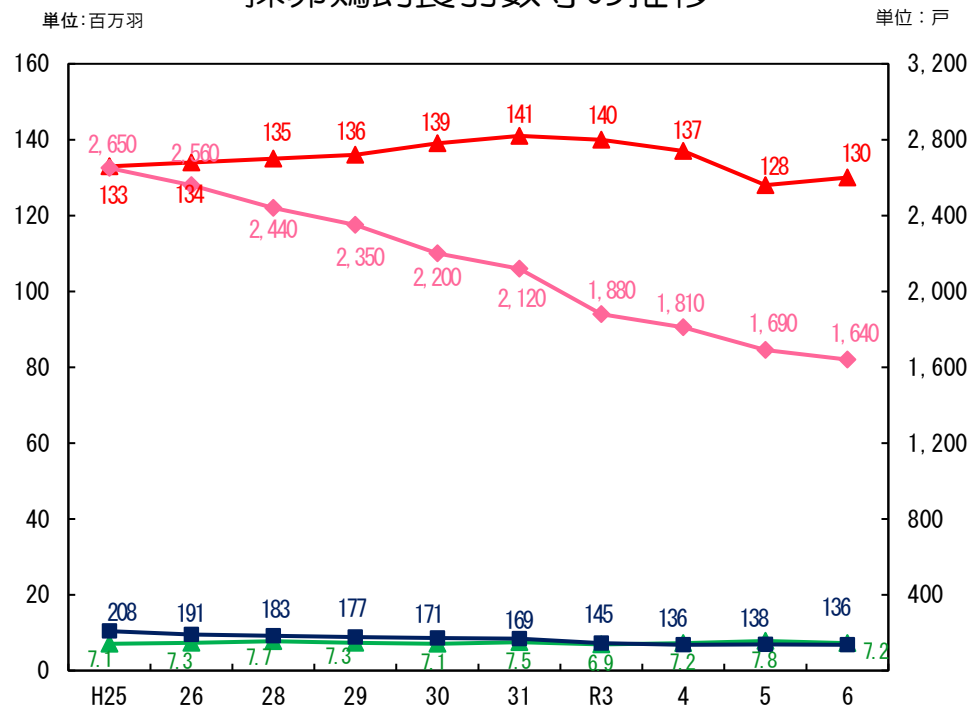


# 5. 鶏について(卵用鶏) (戸数・羽数)

- 近畿地域の令和6年2月1日現在における採卵鶏の飼養戸数は136戸で、対前年比は98.6%であった。飼養羽数は対前年比92.1%である。
- 府県別では、兵庫県が飼養戸数、飼養羽数ともにトップで、飼養羽数では近畿管内の約68.3%を占める。



採卵鶏飼養羽数等の推移

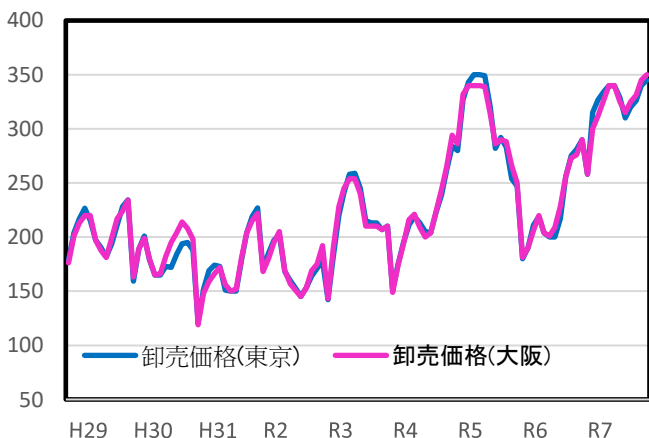


(参考) 鶏卵の自給率は96% (R5年度概算)

# 5. 鶏について(卵用鶏) (流通・消費)

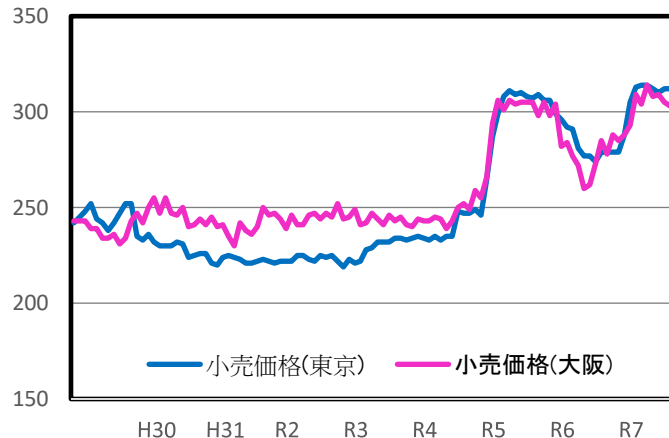
- 卸売価格は、夏場の低需要期に向けて低下し、年末の需要期に向けて上昇する傾向がある。
- 令和2年度は、4月の緊急事態宣言後、業務用の需要が大幅に減少したため、価格は低水準で推移した。
- 令和3年度は、令和2年度シーズンの鳥インフルエンザの発生による殺処分羽数が多くなったことで価格は例年を上回って推移したが、その後は生産回復に伴い昨年並みの水準で推移した。
- 令和4年度は、業務用需要が回復傾向にあることや生産コストの上昇等から、価格は例年を上回る水準で推移。その後、10月以降に発生した鳥インフルエンザにより、採卵鶏の殺処分が飼養羽数の1割強にのぼったことから、価格は大幅な高値で推移した。
- 令和5年度は、鳥インフルエンザの発生農場において再導入が進んでいることや鳥インフルエンザの影響により減少した加工用の需要が回復していないこと等から、6月以降価格は下落傾向で推移し、1月以降は例年並みの水準で推移した。
- 令和6年度は、引き続き加工用の需要が減少していたことにより、夏までは価格が低迷していたが、夏以降は猛暑の影響により供給量が一時的に減少したことや、1月に鳥インフルエンザの発生が頻発したこと等により、例年よりも高い水準で推移。

鶏卵の卸売価格（全農Mサイズ）



資料：JA全農たまご(株)

鶏卵の小売価格



資料：総務省「小売物価統計調査報告」

14年7月からMサイズ 1kg → Lサイズ 10個

鶏卵購入額

順位	市等	金額：円
1	高知市	13,829
2	鳥取市	13,813
3	岐阜市	13,805
4	福島市	13,625
5	堺市	13,054
6	熊本市	13,006
7	和歌山市	13,002
8	奈良市	12,962
9	北九州市	12,943
10	神戸市	12,738
11	長崎市	12,705
12	大津市	12,676
13	広島市	12,571
14	新潟市	12,523
15	京都市	12,505
16	大阪市	12,321
~~~~~		
50	宇都宮	10,129
51	前橋市	9,969
52	青森市	9,665
	全国平均	11,739

鶏卵消費量

順位	市等	数量：g
1	鳥取市	36,870
2	新潟市	36,045
3	岐阜市	35,839
4	松江市	34,907
5	奈良市	34,298
6	大阪市	34,168
7	堺市	33,593
8	松山市	33,576
9	福島市	33,567
10	大分市	33,519
11	富山市	33,493
~~~~~		
14	和歌山市	33,401
18	大津市	32,885
22	京都市	32,262
~~~~~		
50	甲府市	27,247
51	東京都区部	26,569
52	宇都宮	26,345
	全国平均	30,925

資料：総務省「家計調査」  
(R4年～R6年平均)

## 6. 枝肉の格付基準 (その1)

- 牛枝肉の格付は、①「歩留等級」と②「肉質等級」との分離評価方式を用いて、連記表示します。

例えば・・・

A - 3  
①                      ②

- ①歩留り・・・第6～第7肋骨間の切開面の「胸最長筋（ロース芯）面積」、「バラの厚さ」、「左半丸冷と体重量」および「皮下脂肪の厚さ」の4項目を用いて基準値を算出します。

$$\begin{aligned}
 \text{歩留基準値} = & 67.37 + [0.130 \times \text{胸最長筋面積 (cm}^2\text{)}] \\
 & + [0.667 \times \text{「バラ」の厚さ (cm)}] \\
 & - [0.025 \times \text{冷と体重量 (半丸枝肉kg)}] \\
 & - [0.896 \times \text{皮下脂肪の厚さ (cm)}]
 \end{aligned}$$

※ただし、肉用種枝肉の場合には、2.049を加算する。



等級	歩留基準値	歩留
A	72以上	部分肉歩留が標準より良いもの
B	69以上72未満	部分肉歩留が標準のもの
C	69未満	部分肉歩留が標準より劣るもの



- ・昭和36年に取引規格が設定されて格付が行われるようになり、「同じ品質のものは、全国どこでも同水準の価格で取引」されるようになりました。
- ・現在、食肉の格付機関として設立された(社)日本食肉格付協会の指導のもと、食肉格付員によって厳格に判定が行われています。

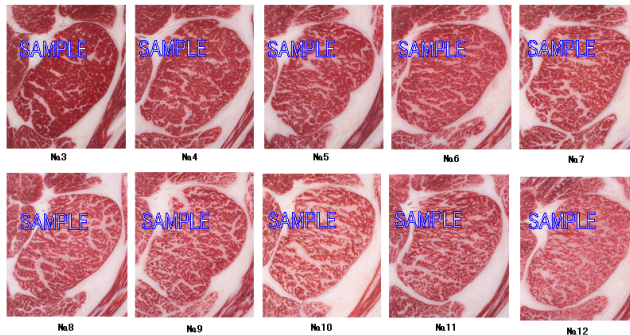
# 6. 枝肉の格付基準 (その2)

②肉質・・・第6～第7肋骨間の切開面の「脂肪交雑(※1)」「肉の色沢(※2)」「肉の締まり及びきめ(※3)」「脂肪の色沢と質(※4)」の総合判定によって決まります。  
4つの項目についてそれぞれ判定し、その項目別等級のうち、最も低い等級に決定して格付けされます。

## ※1：脂肪交雑の等級区分

B.M.S. No.	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12
脂肪交雑基準	0	0+	1-	1	1+	2-	2	2+	3-	3	4	5
等級区分	1	2	3		4			5				

牛枝肉格付判定時の脂肪交雑基準の判定について(「写真による脂肪交雑基準」略称:PSS)

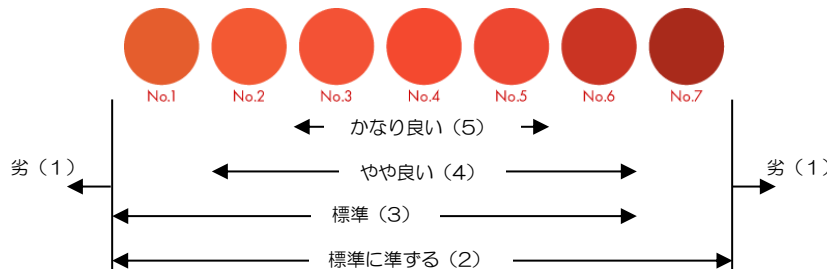


## ※3：肉の締まり及びきめ

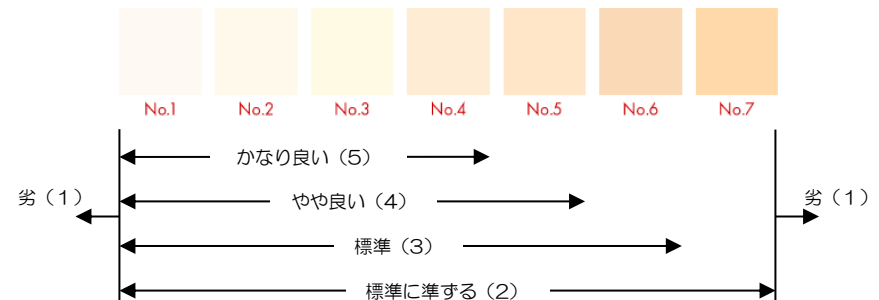
等級	締まり	きめ
5	かなり良いもの	かなり細かいもの
4	やや良いもの	やや細かいもの
3	標準のもの	標準のもの
2	標準に準ずるもの	標準に準ずるもの
1	劣るもの	粗いもの

## ※2：肉の色沢

牛肉色基準 (B.C.S.)



## ※4：脂肪の色沢と質 牛脂肪色基準 (B.F.S.)



資料：(社)日本食肉格付協会 牛枝肉取引規格より



# 7. 牛肉等の輸出促進について

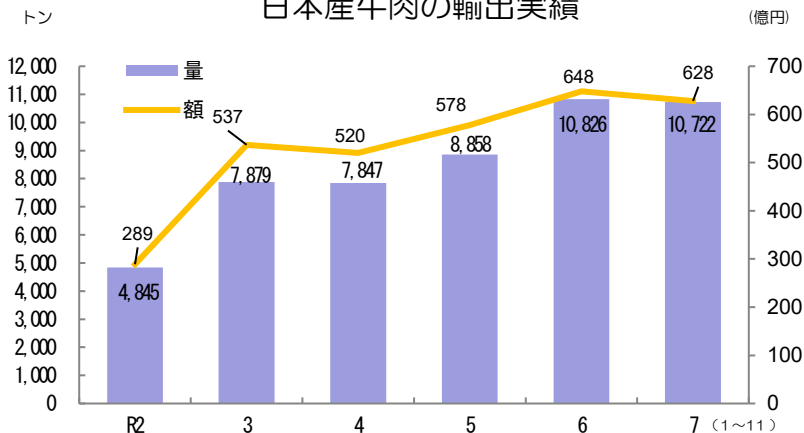
- 令和4年の牛肉の輸出額は、香港における外食規制などアジアにおいて、コロナの影響で外食需要が落ち込んだこと、米国における低関税輸入枠超過による関税引上げや物価高等の影響により、520億円となった。
- 令和5年は、米国向けは前年と同程度。一方、台湾、香港向け等が伸び、全世界・地域向け合計では、金額ベースで11%増の578億円となった。
- 令和6年は、特に米国向けは新規商流開拓、台湾向けは外食需要の増加により輸出が増加し、輸出額は648億円（前年比12%増）となった。
- 令和7年（1-11月）は、輸出額が628億円（前年同期比15%増）となった。

にっぽんの味 おいしい和牛

A taste of Japan-Let's eat delicious Wagyu!



日本産牛肉の輸出実績



データ：貿易統計ベース

神戸ビーフ認定頭数と輸出量

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R12目標
神戸ビーフ認定頭数	5,639	6,120	6,298	6,623	6,846	6,820 ※	7,200
神戸ビーフ輸出量(t)	35.6	44.1	72.7	78.0	68.5	47.3	50.0

資料：兵庫県HP

※ 速報値

輸出国・地域別の牛肉の輸出施設認定状況

令和6年10月現在

	米国	カナダ	メキシコ	ブラジル	EU	ロシア等	NZ	香港	台湾	UAE	カタール	バーレーン	マレーシア	シンガポール	フィリピン	マカオ	タイ	ベトナム	ミャンマー	インドネシア	アルゼンチン	ウルグアイ	オーストラリア	サウジアラビア
全国	19	12	13	3	15	7	34	14	39	7	14	9	2	36	18	128	139	112	89	4	6	4	12	4
近畿	3	1	1		3	4	6	2	6	3	3	3	1	3	4	14	14	12	10	1	1	1	1	1

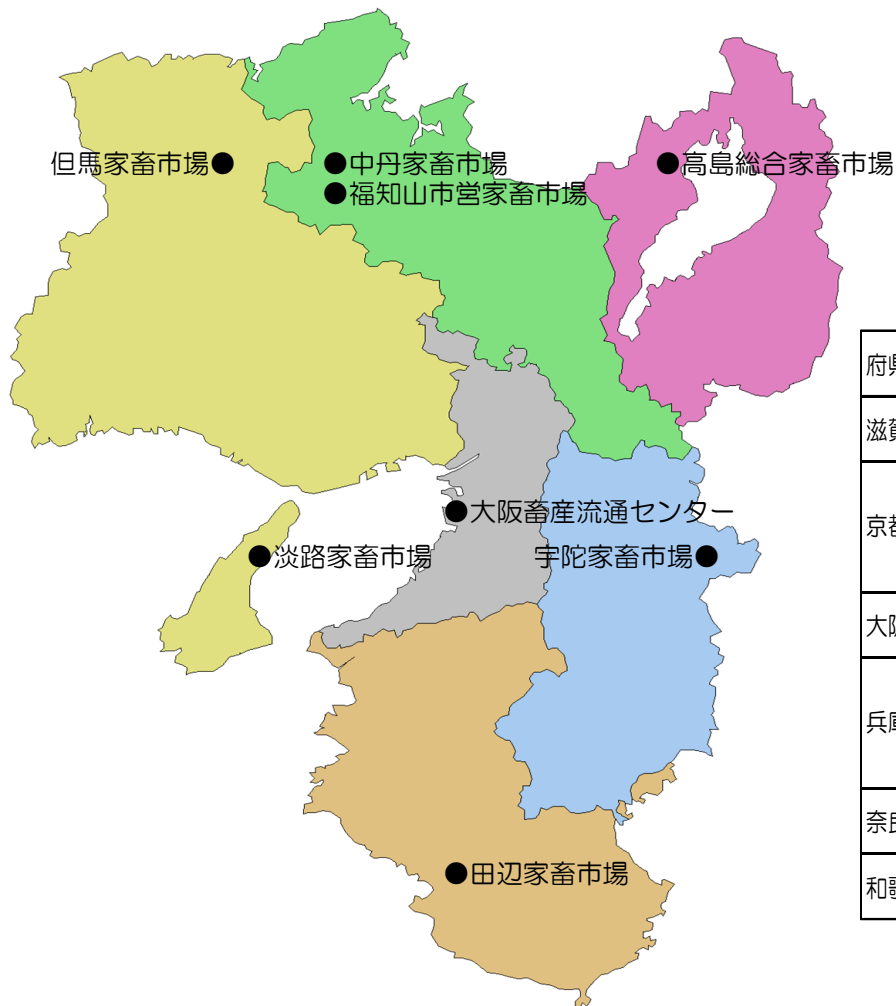
※ 施設名や住所が異なる場合、と場とカッティング施設を別にカウントしている。

出典：農林水産省HP



## 8. 地域家畜市場の概要

- 京都府/中丹市場及び兵庫県/淡路市場/但馬市場については、肉用子牛生産安定等特別措置法第5条第3項の規程に基づく、指定家畜市場である。
- 現在、近畿地域にある8カ所の家畜市場のうち2カ所は休場している。
- 高島市場は年3回（3、7、11月）、中丹市場は年5回（1、3、6、9、11月）、淡路市場は毎月、但馬市場は年9回（2、6、8月を除く）、宇陀市場は年4回（1、4、7、10月）開催している。



- 各市場の取引状況等の概要については、(社)全国肉用牛振興基金協会の家畜市場データベースにて、確認できるようになっている。



<http://nbafa.or.jp/mkt.html>

府県名	名称	住所 /開設者	登録年月日	備考
滋賀県	高島総合家畜市場	高島市今津町弘川249-2 <高島総合家畜市場運営協議会>	S31.12.13	
京都府	中丹家畜市場	福知山市牧小字神谷285 <全国農業協同組合連合会京都府本部>	H13.4.2	
	福知山市営家畜市場	福知山市牧小字神谷285 <福知山市>	S31.12.17	
大阪府	大阪畜産流通センター	堺市東区八下町1-122 <大阪府同和食肉事業協同組合連合会>	S53.2.10	休場
兵庫県	淡路家畜市場	淡路市塩田新島3-2 <淡路畜産農業協同組合連合会>	S32.1.17	
	但馬家畜市場	養父市大数1168 <たじま農業協同組合>	H13.10.3	
奈良県	宇陀家畜市場	宇陀市榛原下井足814-2 <奈良県農業協同組合>	S58.5.16	
和歌山県	田辺家畜市場	田辺上の山一丁目11-11	S43.8.1	休場

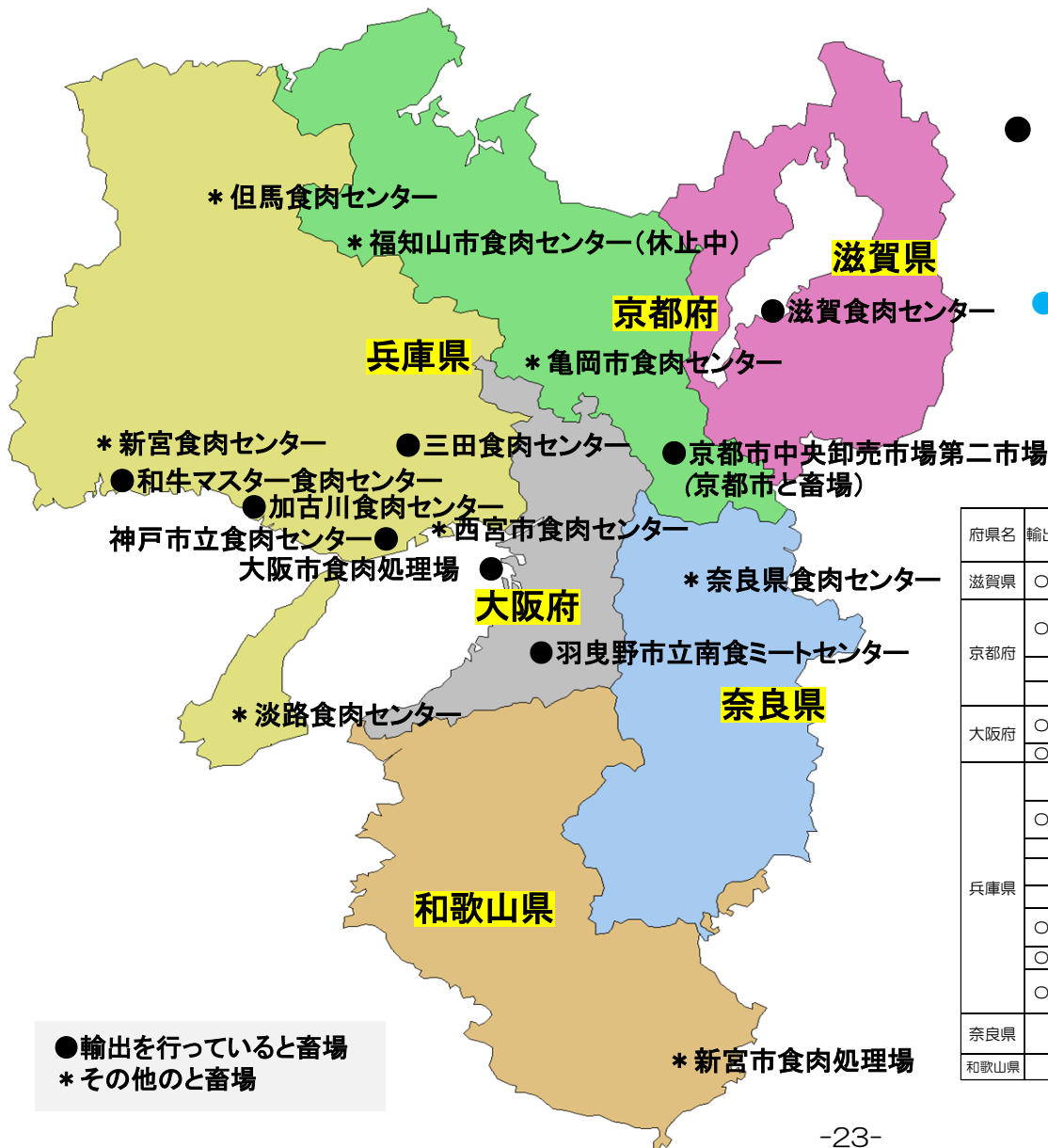
H30.3.31現在

# 9. 地域食肉センター等の概要

- 近畿管内には、と畜場法に基づく食肉センター等が16か所（うち1か所休止中）あり、うち、8か所は、卸売市場法に基づく食肉卸売市場が併設されている。
- また輸出を行う食肉センター等（輸出向け処理を行う食肉処理施設を併設）は、8か所ある。

● 食肉市況速報や全国の主な食肉市場の概要等については、(社)日本食肉市場卸売協会のホームページにおいて、公開されている。

➡ <https://mmb.jmma.or.jp/member/>



府県名	輸出	と畜場名 (卸売市場名)	所在地	設置者	卸売市場	
					中央	地方
滋賀県	○	滋賀食肉センター (滋賀食肉センター地方卸売市場)	近江八幡市長光寺町1089-4	(公財)滋賀食肉公社		○
京都府	○	京都市と畜場 京都市中央卸売市場第二市場 (京都市中央食肉市場)	京都市南区吉祥院石原東ノ口2	京都市	○	
		亀岡市食肉センター	亀岡市三宅町八田33	亀岡市		
		福知山市食肉センター*休止中	福知山市字牧小字大神谷292-17	福知山市		
大阪府	○	大阪市食肉処理場 *新築中 (大阪市中央卸売市場南港市場)	大阪市住之江区南港南5-2-48	大阪市	○	
	○	羽曳野市立南食ミートセンター	羽曳野市向野2-4-14	羽曳野市		
兵庫県		西宮市食肉センター (西宮市食肉地方卸売市場)	西宮市西宮浜2-32-1	西宮市		○
	○	加古川食肉センター (加古川食肉地方卸売市場)	加古川市志方町533	(公財)加古川食肉公社		○
		新宮食肉センター	たつの市新宮町仙正34-1	越部と畜場協同組合		
		但馬食肉センター	朝来市和田山町林垣268-1	(株)但馬牛振興公社		
		淡路食肉センター	南あわじ市市小井441-6	淡路広域行政事務組合		
	○	神戸市立食肉センター (神戸市中央卸売市場西部市場)	神戸市長田区刈藻通7-1-20	神戸市		○
	○	三田食肉センター	神戸市北区長尾町宅原11	(株)三田食肉公社		
奈良県		和牛マスター食肉センター (姫路市食肉地方卸売市場)	姫路市東郷町1451-5	和牛マスター(株)		○
		奈良県食肉センター	大和郡山市丹後庄町475-1	(公財)奈良県食肉公社		○
和歌山県		新宮市食肉処理場	新宮市新宮8002-57	新宮市		

# 10. 生乳処理工場の概要

- 近畿地域の生乳処理工場は、42工場（全国の約8.7%）、このうち1日当たりの生乳処理量2トン未満の小規模工場が半数以上（24工場）を占めている。

## ○ 生乳処理工場数

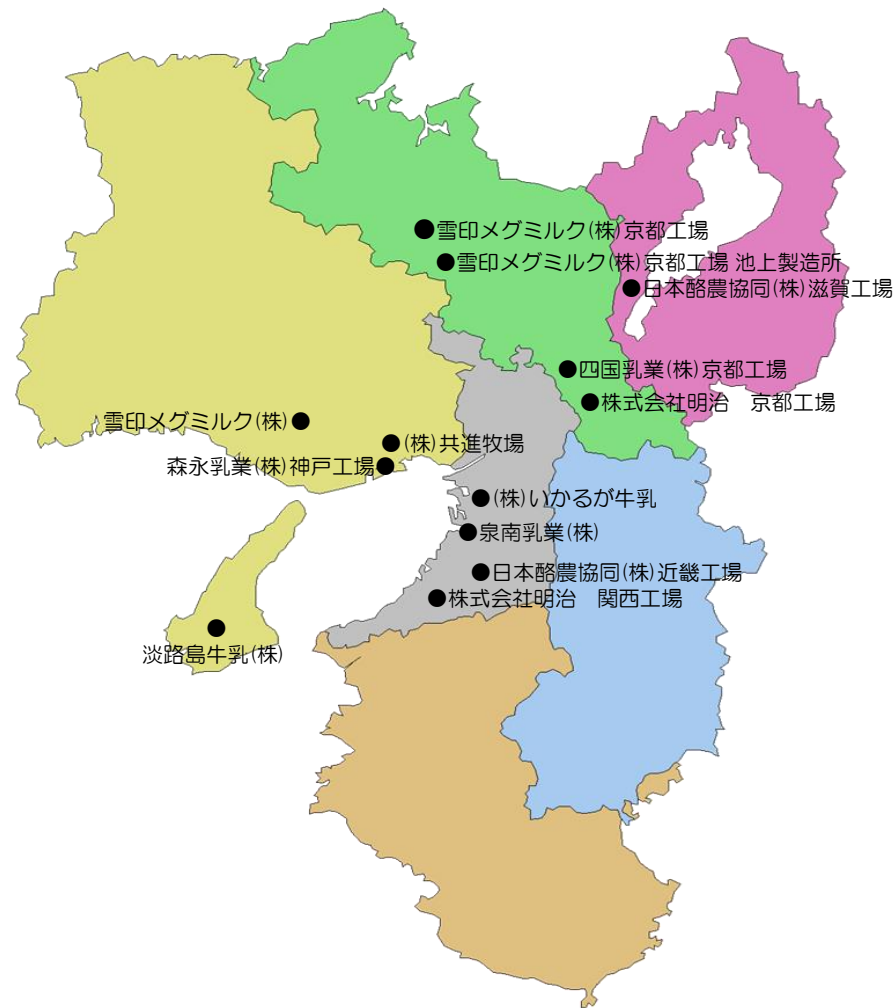
（単位：工場、%）

	R2	R3	R4	R5	R6
全国 ①	499	494	489	483	483
うち2t/日未満	270	270	267	263	262
近畿 ②	45	45	42	41	42
うち2t/日未満	26	26	24	23	24
割合 ②/①	9.0	9.1	8.6	8.5	8.7
うち2t/日未満	9.6	9.6	9.0	8.7	9.2

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

## ○ 主な生乳処理工場

府県名	名称	住所
滋賀県	日本酪農協同(株)滋賀工場	大津市あかね町3-1
京都府	雪印メグミルク(株)京都工場	南丹市八木町字美里紫野1
	雪印メグミルク(株)京都工場池上製造所	南丹市八木町大字池上古里1-1
	株式会社明治 京都工場	京田辺市大住立原1-1
	四国乳業(株)京都工場	八幡市岩田南野15-1
大阪府	(株)いかるが牛乳	大阪市住之江区新北島4-4-12
	日本酪農協同(株)近畿工場	和泉市小田町1-8-1
	泉南乳業(株)	堺市中区土塔町1991
	株式会社明治 関西工場	貝塚市二色南町16番地
兵庫県	雪印メグミルク(株)	神戸市西区井川谷町潤和824-1
	(株)共進牧場	神戸市中央区橋通1-2-12
	森永乳業(株)神戸工場	神戸市灘区摩耶埠頭3
	淡路島乳業(株)	南あわじ市善光寺26-1



（年間処理量1万t以上の乳業工場のみ記載）



# MAFF

## 農林水産省

発行  
近畿農政局生産部畜産課